

## 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 5 年 9 月 調査結果 - -

( 平成 1 5 年 9 月 3 0 日 )

調査期間：平成 1 5 年 9 月 1 6 日 ~ 2 2 日

調査対象：全国の 4 0 2 商工会議所が 2 5 7 2 業種組合等にヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 8 2 製造業 6 3 0 卸売業 2 3 0  
小売業 7 3 4 サービス業 5 9 6

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 【平成15年9月調査結果のポイント】

### 業況DIは引き続き改善するも、依然、低水準

9月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（45.0）よりマイナス幅が1.6ポイント縮小して43.4となり、3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

業種別の業況DIは、小売を除く4業種でマイナス幅が縮小したため、全産業合計の業況DIもマイナス幅が縮小した。しかし、一部に景気回復の兆しを指摘する声があるものの、依然DI値の水準は低く、中小企業の足元では、業況の停滞感が続いている。景気の先行きについても、期待するとの声の一部にある一方、公共事業の縮小や、消費の低迷、競争激化などを訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「若干公共事業が増加」（一般工事）との声があるものの、「新規受注高は前年同月比で多少増加してきているが、採算は悪化したまま」（建築工事）との声や、「公共事業の予算大幅減により受注競争が激しく、今後も厳しい状況が続くと予想される」（一般工事）といった声が寄せられている。

【製造業】では、「モバイル通信、デジタルテレビ、光学商品等が好調」（電気機器製造）といった声の一方、「発注元のコスト下げ要請が強く対応に苦慮」（自動車、附属品）、「業況は上向きになりつつあるが、円高傾向により輸出部門については逆風になっている」（電子部品）といったコメントが寄せられている。

【卸売業】では、「残暑の厳しい日が続き、飲料関連が好調で、8月分を取り戻した」（食料、飲料）といった声の一方、「同業者間の価格競争は一段と進行しており、業況は依然、厳しい」（農畜産水産物）、「冷夏と残暑の厳しさにより、売上高が減少」（衣服、日用品）と、厳しい状況を訴える声が寄せられている。

【小売業】では、「8月下旬から高級商品の売れ行きが少し良くなってきた」（商店街）との声があるものの、「冷夏の影響で生鮮食品等の仕入れ単価が上昇している」（百貨店）、「冷夏から一転し残暑が厳しく、秋物の動きが止まり、気温の低かった月初に夏物処分品を引き上げた直後だっただけに、影響が大きかった」（百貨店）といった声が寄せられている。

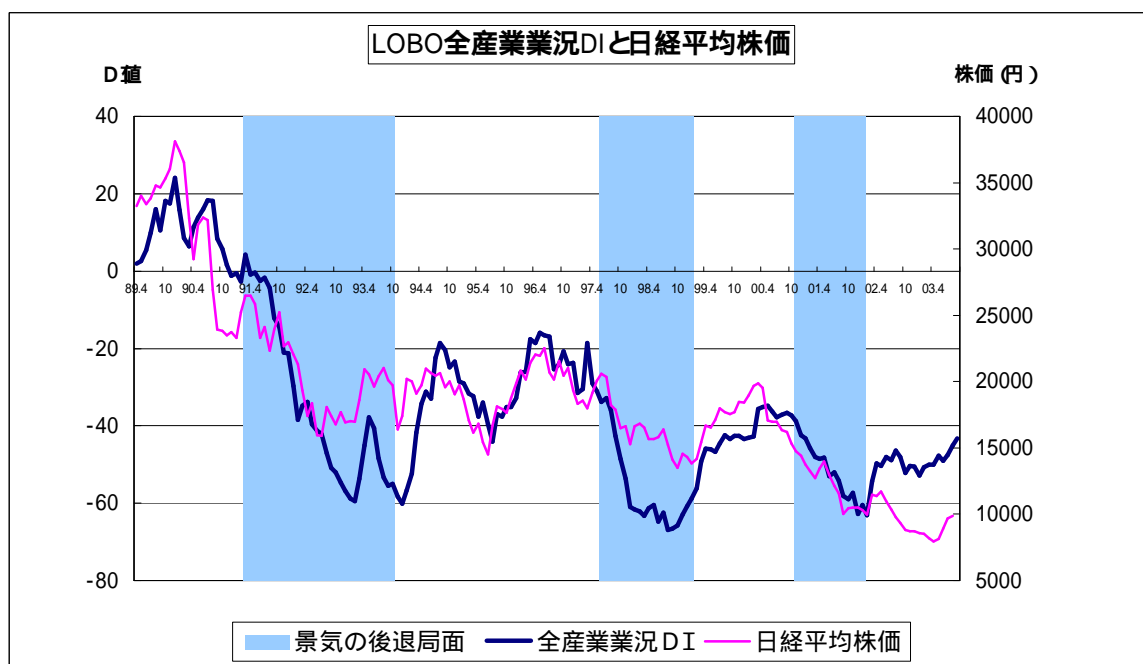
【サービス業】では、「いくらか景気回復の兆しが見えるような気がする」（すし店）との声の一方、「長引く不況で客足が鈍り、今後、結婚シーズンに入り、年度内でどのくらい回復できるかに注目している」（美容）、「天候不順により、野菜・米などの原材料費があがり厳しい」（旅館）、「倉庫引き合いの減少により、売上も先行き見通しも暗い」（倉庫）といった声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は、製造、サービスで前月水準より拡大、建設で横ばいだったが、卸売、小売で縮小したため、全産業合計の採算D I は0.8ポイント縮小して 39.9となり、3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は、建設、製造で前月水準より拡大したが、他の3業種で縮小したため、全産業合計の採算D I は1.5ポイント縮小して 39.6となり、3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(10月～12月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース)が 31.2と、昨年同時期の先行き見通し( 37.9 )と比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、一部に先行きに期待との声がある一方、公共事業の縮小や、消費の低迷、競争激化などを訴えるコメントが目立っている。



【業況についての判断】

9月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（45.0）よりマイナス幅が1.6ポイント縮小して43.4となり、3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

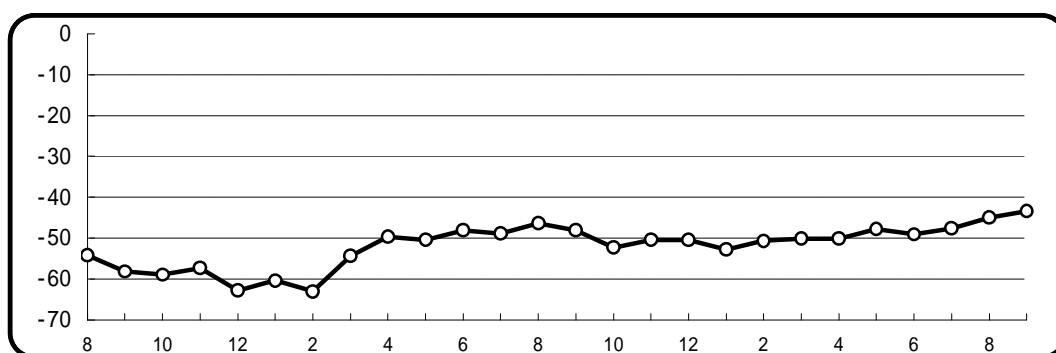
向こう3カ月（10月～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が31.2と、昨年同時期の先行き見通し（37.9）と比べて改善している。

業況D I（前年同月比）の推移

	15年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	50.1	47.8	49.1	47.6	45.0	43.4	31.2 ( 37.9)
建設	64.7	63.0	61.7	59.0	57.2	54.6	44.5 ( 53.2)
製造	43.6	40.7	44.3	37.3	31.8	31.7	24.9 ( 34.2)
卸売	47.9	46.8	44.6	47.0	52.1	41.1	22.2 ( 35.0)
小売	48.6	46.4	46.4	50.0	48.2	48.3	32.3 ( 34.8)
サービス	50.0	47.4	51.4	48.9	44.4	43.6	31.3 ( 37.0)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
（ ）内は昨年9月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

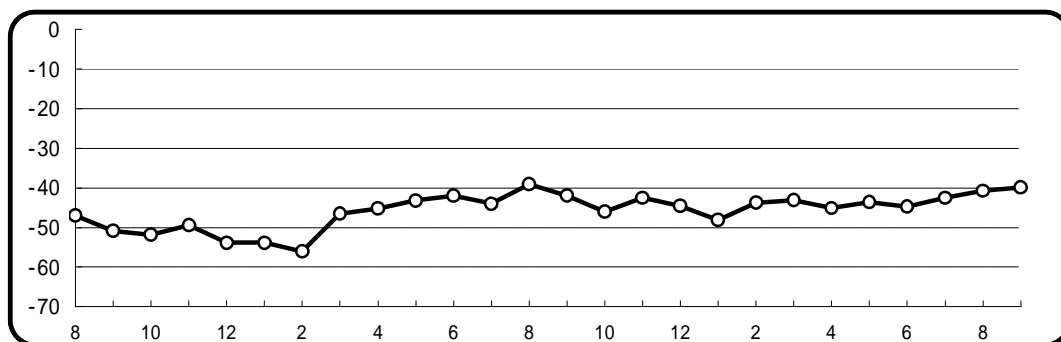
売上面では、D I 値のマイナス幅は、製造、サービスで前月水準より拡大、建設で横ばいだったが、卸売、小売で縮小したため、全産業合計の採算D I は0.8ポイント縮小して 39.9となり、3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(10月～12月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 25.8と、昨年同時期の先行き見通し( 30.2 )に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	15年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	45.1	43.6	44.7	42.5	40.7	39.9	25.8 ( 30.2)
建設	62.9	58.4	59.2	52.0	50.9	50.9	42.1 ( 45.6)
製造	34.4	33.3	36.8	31.0	24.3	24.4	19.1 ( 28.8)
卸売	46.7	47.7	39.2	45.2	46.7	36.8	17.3 ( 24.4)
小売	46.6	43.3	46.9	46.7	48.5	47.2	26.6 ( 26.1)
サービス	42.7	43.5	43.5	42.8	39.6	41.8	24.6 ( 29.1)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

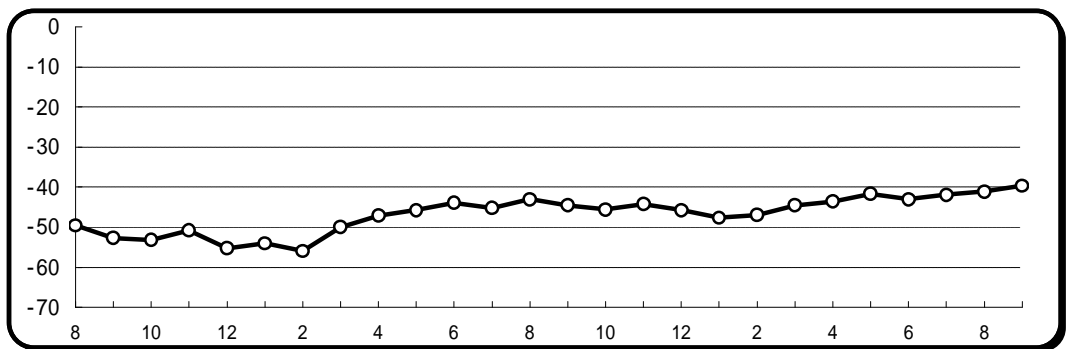
採算面では、D I 値のマイナス幅は、建設、製造で前月水準より拡大したが、他の3業種で縮小したため、全産業合計の採算D I は1.5ポイント縮小して39.6となり、3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(10月～12月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が28.5で、昨年同時期の先行き見通し(33.3)と比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	15年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	43.5	41.6	43.0	41.9	41.1	39.6	28.5 (33.3)
建設	58.3	60.1	62.2	60.1	56.2	56.4	45.4 (52.5)
製造	39.5	37.0	38.6	36.9	31.1	33.3	25.1 (32.2)
卸売	39.6	40.7	39.8	42.8	40.1	36.2	19.8 (28.1)
小売	41.3	36.2	36.6	34.8	40.3	37.5	23.0 (25.1)
サービス	42.2	41.3	44.4	43.8	43.2	38.6	30.9 (34.1)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	15年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	36.2	32.9	32.9	31.5	30.8	29.0	25.5 ( 29.7)
建設	50.9	46.8	48.9	46.6	44.0	44.3	42.3 ( 47.4)
製造	35.5	33.8	33.7	27.6	26.9	24.0	20.7 ( 29.5)
卸売	34.1	28.9	25.7	28.9	32.1	26.4	18.2 ( 23.6)
小売	27.9	26.2	26.2	26.5	27.8	26.8	22.3 ( 25.4)
サービス	36.8	30.8	30.4	31.3	27.9	27.2	25.9 ( 26.1)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設を除く4業種で悪化超感が弱まり、全産業合計でも3カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べ悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	15年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	5.5	4.3	3.6	3.2	4.4	4.7	5.5 ( 2.7)
建設	2.6	2.5	0.4	1.8	2.8	0.4	4.5 ( 2.7)
製造	16.5	17.7	15.4	14.7	13.3	10.3	8.2 ( 10.4)
卸売	1.2	5.8	0.0	1.2	3.6	0.6	6.8 (1.3)
小売	1.2	6.5	4.0	2.0	0.8	2.9	2.5 (6.0)
サービス	5.4	3.2	3.6	1.8	6.4	5.3	6.6 ( 6.5)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造、卸売、サービスで上昇超感が弱まったが、建設、小売で強まったため、全産業合計でも2カ月連続で強まる。

【先行き見通しD I】製造を除く4業種で昨年同時期に比べ上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I（前年同月比）の推移

	15年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	14.8	14.4	14.1	14.6	11.3	10.9	11.8 ( 14.5)
建設	33.2	34.3	34.3	33.5	28.3	27.3	25.6 ( 33.5)
製造	19.4	19.6	17.1	18.6	13.2	14.1	14.5 ( 18.4)
卸売	13.6	13.5	14.5	15.1	10.2	9.8	6.9 ( 12.9)
小売	5.1	3.6	5.2	6.1	5.5	3.1	6.9 ( 3.6)
サービス	9.6	8.9	8.2	7.7	4.8	5.8	7.0 ( 11.2)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】製造、サービスを除く 3 業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも 2 カ月連続で弱まる。

【先行き見通し D I】小売を除く 4 業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。



## 【平成15年9月の景気キーワード】

### 不況の常態化

今月も、依然として各業種から、業況の低迷を訴える声が多く寄せられている。「新築の件数が少なく、増改築の仕事も、材木店・建材店など異業種からの参入が増え競争激化」(唐津・建築工事)、「公共事業の抑制、競争激化がいつまで続くのか先が見えない状態」(堺・一般工事)、「生産量・売上とも全般的に低下した状態で、回復傾向がなく、今後どのように推移するか不透明」(和歌山・有機化学製品製造)、「支出見直しにより官公庁からの発注が減り、カラー印刷物も価格の下落がひどい」(別府・印刷)、「取引商品全体で消費が伸びず、売上減少」(遠軽・農畜産水産物卸)、「業況は昨年並みだが、目的買いのみで、一般消費者への売上が悪い」(高岡・商店街)、「基本的に消費の減少は変わらず、今月は5%減で、今後3カ月でも停滞または微減の見通し」(鹿児島・百貨店)、「地価が下がっている間は、消費者も動向を見極めるため購買を抑制しているようで、依然、業況は低迷している」(小山・不動産)、「不況により顧客の来店サイクルが長期化し、男性客の美容院利用や低料金店への流出により低迷が続いている」(延岡・理容)といった声が寄せられている。

### 先行き期待感

一部からは、景気の先行きへの期待の声が寄せられている。建設、製造からは「民間の設備投資動向に明るさが見られ、需要が増加」(名古屋・建築工事)、「来年度分の工事が急に施工されるようになり、多少景気が良くなってきたかという感じ」(鎌倉・建築工事)、「デジタルカメラ関連の売上が、11月頃までに5~10%上昇する見込み」(弘前・電子部品製造)、「工作・繊維・建設機械メーカーと、その下請企業が好調で、特に自動車関係の受注が増加している」(金沢・金属製品製造)、「引き続き中国市場向けの出荷、受注が好調」(大阪・繊維機械製造)といった声が寄せられており、他の業種からも「いく分、上向きの気配が感じられ、当面はこのまま続くのではないか」(小野・その他卸売)、「8月下旬から高級商品の売れ行きが良くなってきた」(大津・商店街)、「韓国・台湾からの観光客をはじめ、客の入り込みは昨年を大幅に上回っている」(釧路・食堂、レストラン)といったコメントが寄せられている。一方、業種や企業間での格差が生じていると指摘する声も多く、「組合内で企業間格差が生じており、厳しい雰囲気」(各務原・建築工事)、「輸出産業は好調な部分もあるが、内需の低迷が続く、大きな変化は感じられない」(下館・金物類製造)、「天候が良かったので、観光客の立ち寄る飲食店は良かったが、他は厳しく二極化が顕著」(銚子・一般飲食店)といった声が寄せられている。

### 【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
15年	7月	不況の常態化	天候不順	先行き期待感
	8月	不況の常態化	冷夏	
	9月	不況の常態化	先行き期待感	

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは6カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上D Iは横ばい、採算D Iは3カ月ぶりに拡大した。「公共工事の発注が順調なため、請負高が上昇している」(一般工事)「若干公共事業が増加」(一般工事)といった声があるものの、「新規受注高は前年同月比で多少増加してきているが、採算は悪化したまま」(建築工事)との声や、「公共事業の予算大幅減により受注競争が激しく、今後も厳しい状況が続くと予想される」(一般工事)「公共、民間とも住宅開発の減少にともない、上下水道とも仕事量が大幅に減少し、県内外の業者による値引き競争が非常に厳しく、受注しても原価割れの状況」(管工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは3カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上、採算D Iは3カ月ぶりに拡大した。「モバイル通信、デジタルテレビ、光学商品等が好調」(電気機器製造)「価格競争の激化、安価な輸入家具の増加等、依然厳しい状況だが若干の回復傾向」(家具)といった声の一方、「発注元のコスト下げ要請が強く対応に苦慮」(自動車、附属品)「原料高・製品安が依然続いている」(プラスチック)との声や、「業況は上向きになりつつあるが、円高傾向により輸出部門については逆風になっている」(電子部品)と、厳しいコメントが寄せられている。
卸 売	業況、売上D Iは3カ月ぶり、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「残暑の厳しい日が続き、飲料関連が好調で、8月分を取り戻した」(食料、飲料)「10月から1都3県で実施される排気ガス規制への対応によるトラック需要と、発売直後の乗用車の新型車効果により、受注、販売とも前年同月比増」(自動車)といった声の一方、「木材価格は底を打った感があるが、製品の流れは依然として厳しい」(建築材料)「同業者間の価格競争は一段と進行しており、業況は依然、厳しい」(農畜産水産物)「冷夏と残暑の厳しさにより、売上高が減少」(衣服、日用品)と、厳しい状況を訴える声が寄せられている。
小 売	業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、売上、採算D Iは2カ月ぶりに縮小した。「8月下旬から高級商品の売れ行きが少し良くなってきた」(商店街)「客数は前年に比べ若干上昇で、秋に向け食料品の売上増に期待している」(百貨店)といった声があるものの、「冷夏の影響で生鮮食品等の仕入れ単価が上昇している」(百貨店)「冷夏から一転し残暑が厳しく、秋物の動きが止まり、気温の低かった月初に夏物処分品を引き上げた直後ただだけに、影響が大きかった」(百貨店)「残暑により売上の中心となる秋物衣料の動きが悪く、今後、秋物販売期間が短いまま冬物需要期に入ると、売上の低迷が続くおそれがある」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上D Iは4カ月ぶりに拡大した。「いくらか景気回復の兆しが見えるような気がする」(すし店)「業界全体として下げ止まりの傾向で、一部業者に上向きの兆しが見られる」(洗濯)といった声の一方、「長引く不況で客足が鈍り、今後、結婚シーズンに入り、年度内でどのくらい回復できるかに注目している」(美容)「天候不順により、野菜・米などの原材料費があがり厳しい」(旅館)といった声のほか、「倉庫引き合いの減少により、売上も先行き見通しも暗い」(倉庫)「10月から1都3県で実施される排ガス規制による、車両の購入・装置取り付け等の資金繰りに苦慮している」(運輸)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)をみると、北陸信越、東海、近畿を除く6ブロックでマイナス幅が縮小し、全ブロック合計でも縮小した。

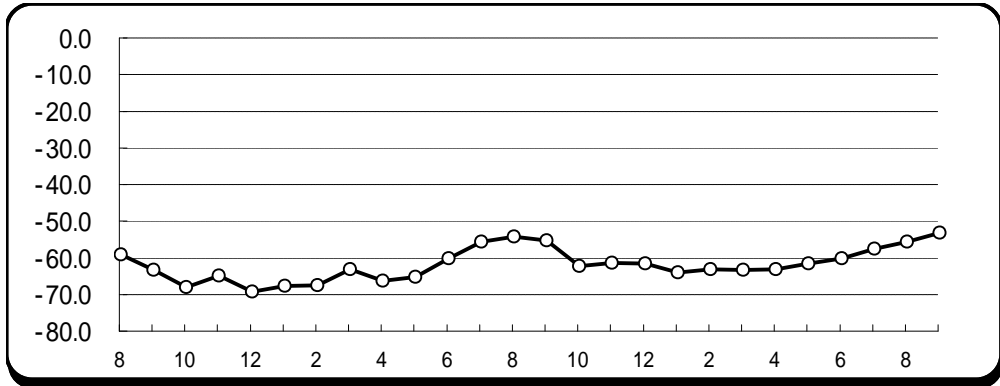
ブロック別の向こう3カ月(10月~12月)の業況の先行き見通しは、九州を除く8ブロックで昨年同時期の先行き見通しと比べ改善し、全ブロック合計でも改善している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

	15年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全 国	50.1	47.8	49.1	47.6	45.0	43.4	31.2 ( 37.9)
北海道	44.3	47.0	41.5	39.8	40.7	37.0	36.2 ( 36.3)
東 北	54.7	46.8	46.8	46.7	48.8	42.4	34.0 ( 49.7)
北陸信越	47.3	44.3	45.0	42.1	44.0	46.0	28.2 ( 36.6)
関 東	50.9	47.4	48.9	50.0	47.2	44.1	29.2 ( 32.1)
東 海	45.4	50.3	42.8	46.7	41.9	46.5	23.9 ( 41.2)
近 畿	50.9	49.6	55.6	48.3	39.6	43.7	34.2 ( 42.3)
中 国	56.8	45.1	47.2	43.8	46.1	41.3	29.4 ( 39.7)
四 国	45.9	51.8	52.3	58.5	49.6	39.6	29.7 ( 39.3)
九 州	51.1	47.9	56.3	50.0	47.3	45.9	37.0 ( 31.4)

# 業況DI (前年同月比)の推移 (全国)

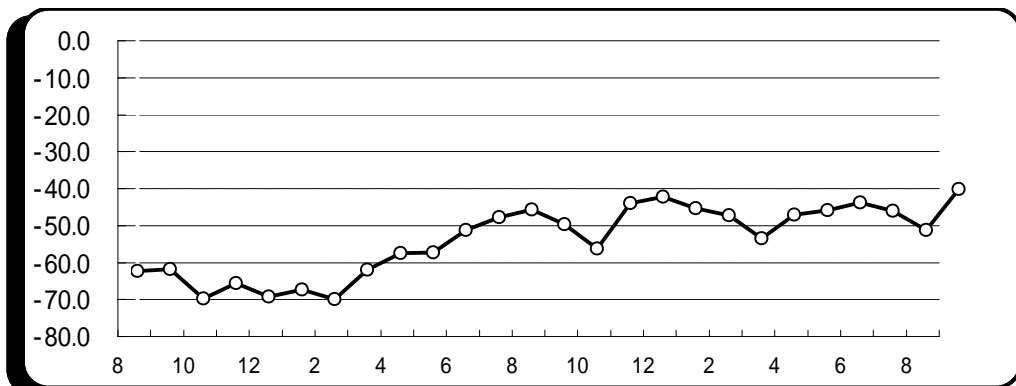
## 建設業



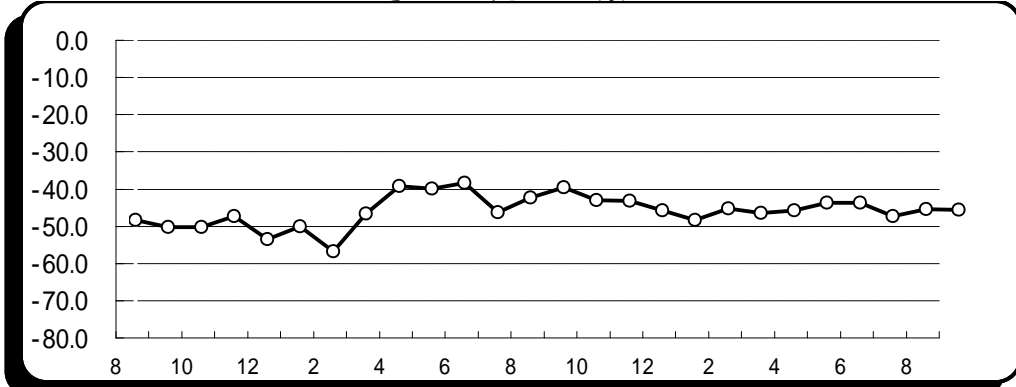
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

